

特進通信

～ 何を感じ、何を考え、何を行動するか ～

現在、大学も企業も「**自ら考え、行動できる人材**」を必要としている。3 年生の終わりにどうなっていたいのか、自分を客観視して今何が足りないのか、不足を補うには何をすべきなのか。夏休みは長いようであつという間。かつ、受験生として非常に大事な時期。夢を叶えたいなら、**目標を明確に**提示し、自分に厳しく過ごしてほしい。



【内容】 先生方の『**苦手な科目や成績が大幅に上昇した科目の勉強方法**』

先生方の受験体験から学ぶ！

先生方に苦手科目や成績が大幅に上昇した科目の勉強方法についてアンケートをしました。なかには、もともと不得意な科目を専門科目にできるまで努力を重ねられた先生もいます。勉強に困っている科目、苦手科目において、勉強方法を改善・工夫するきっかけにしてください。

国語

- とにかく授業をしっかりと聞いた。定期テストでは「必ず 8 割以上とる」など、目標を具体的に決めて行動することが大切。古文単語は、英単語と同じ要領で何度も声に出して読んだり、書きうつして覚えた。あとは演習問題を時間の許す限り解きまくった。
- 板書をしっかりと写して、黒板に書かなくても先生の言った必要事項や重要事項は、ノートをとった。不明点は学校にいる間にその日中に解決するようにした。メインでない科目は授業や学校にいる時間でできる限り勉強し終わるように、効率を考えた。
- 古典はとにかく教科書すべて、丸暗記。根性。
- 小説は教科書に載るのはほんの一部なので、文庫本を購入し全文を読んだ。その方が作者や主人公に関して幅広くかつ詳細に考察できる。
- 苦手な現代文は問題集を買って取り組んだ。説明文では大切なところに線を引き要約を書くことを繰り返すうちに少しずつ文章を読めるようになってきた。電車やバスでは読書をし知らない漢字は必ず調べて読んだ。
- 毎朝、学校が開くと同時に入り自習室で勉強した。解く順番と、各分野にかける時間を決めて、その時間通りにできるように勉強をした。進路指導室の駿台の青い教材を使用した。コツをつかめば解けるしわからないことは先生たちに聞いた。【特進 2015 年卒業生】

倫理

- テスト対策では授業のノートを丸ごと暗記した。覚えるときは赤いボールペンを使い、ひたすら書いて覚えた。「ボールペンのインクの減り＝自分にとっての努力の証」となる。

日本史

- 授業でノートを取るだけでは時代の移り変わりの様子がイメージできなかったため、自分で年表を作ったり、出来事のバックグラウンドをとにかく頭に入れるようにした。
- 英語圏の友達で日本の歴史に興味のある子がいたので、説明してあげられるよう、資料集を使い詳しいところまで調べていた。(英語は得意科目)
得意な科目と苦手な科目をミックスさせるとやる気が出る。
- 友達と問題を出しあって覚えた。
- 暇を見つけて教科書を 3 週は読む。苅込先生のいうことを実践して成績が上がった。【特進 2015 年卒業生】

世界史

- 人の名前が長くて覚えるのが難しく、やる気を出すのに苦労した。教科書やノートを見てもなかなか頭に入らなかったため、一問一答式の問題を、机に向かっているときだけでなく隙間時間を有効活用して覚えるようにした。

数学

- 3 年夏まで苦手だった。目標大学ができて、全国模試で 12 点を取り気づいた。それから問題をひたすら解いた。周り比べて自分が一番解いていると思えるくらい解いた。質問はほぼせずに、自分で考え、分からなければ参考書を見る、それでも無理なら解答を見るの繰り返し。その後は一番の得意科目になった。
- 青チャート 7 往復。3 年夏まで、一日 20 ページほど。駿台実践問題集を 7 往復。3 年夏から秋にかけて。計算用紙は使わず、時間を計ってやった。
- 復習を重点的にやった。復習は参考書等を見ずにまずは自分で解いて、どこまでを理解してどこから理解していないかを把握しながら進めた。
- 数学が得意な友達や、先生にノートを見てもらって、その問題を解くために必要な知識を教えてもらった。解き方がわかったら、あとはひたすら数をこなした。
- 苦手だからこそ勉強量を増やすようにした。毎日問題を解いた。
- とにかく基礎的な問題を中心にたくさん解いて、解法のパターンを頭にたたきこんだ。わからない部分は先生に聞いて自分一人で解けるまで同じ問題を繰り返し解いた。
- 一冊の参考書を極める。むやみやたらに複数の参考書に手を伸ばすのではなく、一冊を完全に仕上げ切ったら次のステップに進む。仕上げ切る＝その参考書の問題の 8 割以上を模範解答を見ずに自力で解答できるくらいまで、何周も繰り返し解く。

理科

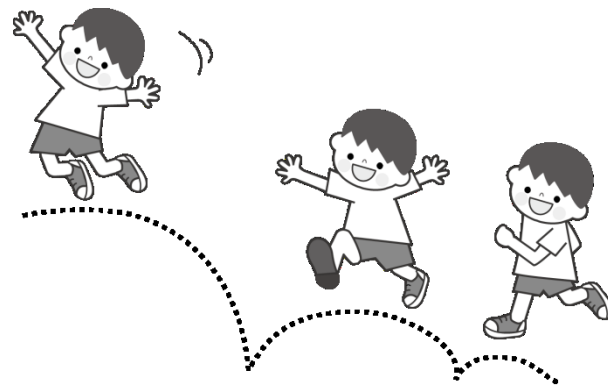
- 先生や友達にたくさん質問した。
- 「物理のエッセンス」という問題集が分かりやすく、何周もした。
- 数学のようにパターンを覚えて問題をひたすら解いて理解していった。
- ひたすら単語を覚えた。ひととおり覚えたら、あとはひたすら問題演習。間違えたら復習。
- 苦手だった遺伝の部分は専門の参考書を買って、問題演習を行った。

英語

- 毎日長文を一時間音読。速読し問題を解く。問題文中の単語・熟語を抜き出し覚える。気になる、あるいは知らない構文を抜き出す。一日3題を解いた。NHKの英会話講座を毎日聞いていた。使った問題集は長文が赤本または英語長文問題精講、文法は基礎英語文法問題精講。
- 知らない単語が多く、長文を読み進めることが困難だったので、まずは語彙をしっかり増やすべく、単語テストや熟語テストは満点を取れるように勉強をした。単語熟語はやった分点数に直結すると感じる。
- とにかく単語！通学時間を利用した。
- 単語帳で毎日10個覚えることをノルマにして覚えられない単語は30回書き、覚えるまで練習した。
- 文法はネクステや英頻を一冊やれば十分。
- 長文が苦手だったので、読むときに必ず文型S、V、O、C、ひとかたまりずつにスラッシュ/をふって読んでいった。
- 苦手な文法は夏休みに基礎的な問題集をやることで一から再度勉強した。仮定法等はリズムで覚えた。夏休み明けは文法の基礎が頭の中にしっかり入ったことにより、一気に英文も読めるようになった。
- 英語は文系理系とも最重要科目なので、1番集中できる時間を勉強時間にあてた。
- 長文問題を解き、文中に出てきた構文や単語を覚えた。音読をすると意外と頭に残るので構文をよく音読した。
- 長文問題を解いた2日後に再度同じ長文問題を解いた。
- 高1で英語は苦手科目、担任は英語の先生だった。面談の際は他科目がどんなに好成绩でもいつも英語の学力の話題でそれがとても嫌だった。だから、授業の予習を完璧なまでにし、英語の参考書や単語帳やテキストを全て見ていき、先生に授業中あてられたときに何でも答えられるようにして授業に臨んだ。わかりませんは絶対に言わず、疑問に思ったら説明できるように付箋をはって納得のいくまで先生をつかまえてきく、発音は休み時間に少しでもネイティブの先生の所へ行き指導を受けていた。ノートは出来るだけ持ち帰りやすいように、付箋やメモで一冊にまとめて書いていた。
- 単語は休み時間に友達と問題を出しあったり常に単語帳を開き1か月に1回、約100個の中から10問担任に出題してもらい、1つでも答えられないとやり直しという形式で必ずその100単語は完璧にした。そのおかげで高3になってからスムーズに過去問演習や他の暗記科目の受験勉強に集中できた。

苦手科目全般

- 短時間で集中して取り組むようにした。
- 得意科目を間に挟んで、苦手科目ばかりをやらないうようにした。
- 得意科目は眠気が吹き飛ぶので、苦手科目を眠くなく集中できる日中にやり、得意科目は一日の最後にやるようにした。
- 3年間で勉強に使ったノートはダンボール一箱分。青ペン書きなぐり法を実施した。



～青ペン書きなぐり勉強法を紹介～

『頭がよくなる 青ペン書きなぐり勉強法』の著者であり、この勉強法の考案者である早稲田塾創業者の相川秀希氏は「人生で成功する法則」と「現役合格の法則」は相似形だと考えている。両者の共通点は「**期限がある中で成果を出す**」こと。

●具体的方法

青ペンとノートを用意する。青ペンはインクの中身が見える「スケルトンタイプ」、減りが早い「ゲルインキ」のものがお勧め。分野別に分けずに、必ず1冊のノートに書きまくるようにすること。裏紙やルーズリーフなど、「1枚」の紙はなくなりやすく、成果を保管できないのでNG。

●注意事項

ペンもノートも、使い終わったら必ずすべて、とっておくようにする。受験前に「こんなにやったんだから大丈夫！」と、自らを鼓舞する拠り所となる。過去の早稲田塾生には、半年で青ペンを100本以上使い切ったという強者もいたという。

●重要ポイント①

「青ペン書きなぐり勉強法」でなにより重要なのは、達成感である。「ペンを1本使い切った」「今日1日でインクがこんなに減った」と、効果を「見える化」することにより、その量が「こんなにやった！」と自信に変わる。そうすると、義務感にかられての勉強が、「もっとやりたいもの」に変わる。さらに続けると「青ペンを握らないと調子が出ない」と“やみつきになる効果”がある。

●重要ポイント②

この勉強法は、そもそも青ペンと1冊のノートさえあれば、「いつでも、どこでも」始められる。あとは、目標に向かって、スタートを切れればいいだけ。書きなぐっているときには気づかないのだけれど、いつの間にか脳に「しみ込んで」、ふとしたときに再現される、と。私はこの感覚は「第六感」に近いのではないかと思われる。目で見て声に出し、それを自分の耳で聞きながら、手を動かして記憶する——。五感をフルに活用して勉強すると、私たちの潜在能力が最大限に発揮されるようになるのではないか。

●なぜ青なのか？

記憶力向上を目的にした場合、青という色そのものにはまず「リラックス」の効果があると著者は語り、行動生理学の観点からも、興奮した気持ちを鎮め落ち着かせる「鎮静効果」が大きいとされているそう。また、普段から黒いペンを常用して、なおかつ多色のマーカーなどで強調する人にとってみれば、青は新鮮に映るもの。そのため、空や海など自然界でもなじみある“青”という色そのものの「印象効果」も働くという。

普段は授業の予習復習、講座など時間に追われるが、長期休暇はゆっくりと、仕事のことや大学のことなど、自分の近い未来について考えることができるだろう。この貴重な夏休みを有効活用しよう。3年生は悩んでいる暇はない。とにかく問題を解くこと。

2016年センター試験(2016/1/16)まであと、半年と12日... 2015/7/4 現在



